

2024年5月23日

レンブラントホテル海老名

廃食用油で空を飛ぶ！！ 使用済み食用油を航空燃料の原料として提供開始

「Fry to Fly Project」に参画 | SDG s の取り組み | 廃油リサイクル | 循環型社会へ

レンブラントホテル海老名（所在地：神奈川県海老名市中央、総支配人：田川祐介）は、日揮ホールディングス株式会社を中心となり企業・自治体・団体と取り組む国内資源循環による脱炭素社会の実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」に2024年5月より参画いたしました。ホテルの宴会場やレストランから排出される使用済みの廃食用油を、国産の持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel）製造の原料として提供することにより、資源循環の促進に取り組みます。

FRY to FLY Project



■ Fry to Fly Projectについて

「Fry to Fly Project」は、家庭や飲食店などから排出される廃食用油という国内資源を原料とする航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel）で飛行機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。家庭や店舗から排出される廃食用油から作られる SAF は、従来の航空燃料に比べて CO₂ の排出量をおよそ 80% 削減することができます。SAF が本格的に導入されるためには多くの廃食用油が必要となりますが、現在、家庭の廃食用油の多くは廃棄され、回収された廃食用油についても年間 10 万トン以上が国外に輸出されていると言われています。

「Fry to Fly Project」公式サイト：<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>